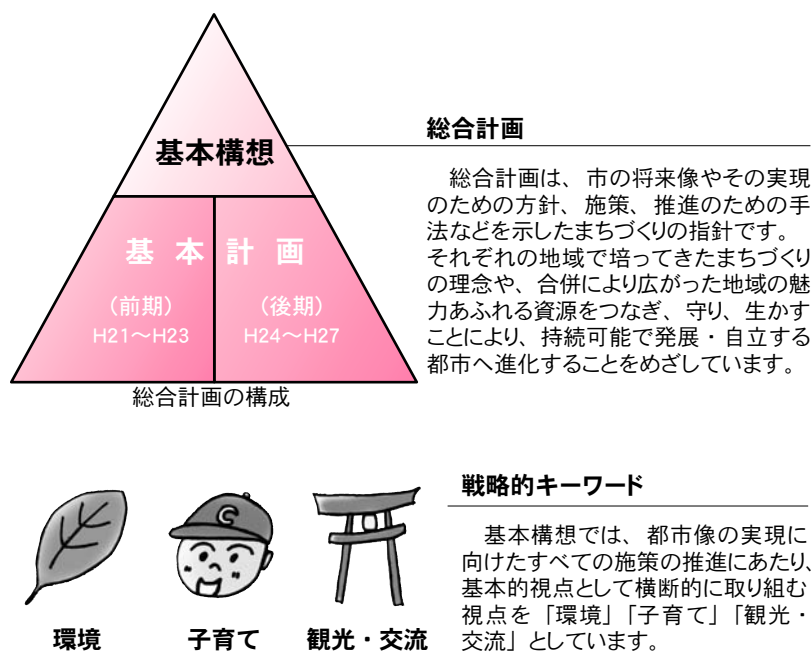


第5次廿日市市総合計画 後期基本計画を策定しました

問合せ 総合政策課 政策企画係 ☎9120

廿日市市では、「世界遺産を未来につなぎ、多彩な暮らしと文化を育む都市・はつかいち」を都市像に掲げ、平成21年度から平成27年度までの7年間を計画期間とする第5次廿日市市総合計画を策定し、まちづくりを進めています。
平成21年度から平成23年度までの前期基本計画の計画期間が、平成24年3月31日をもって終了したため、平成24年度から平成27年度までの4年間を計画期間とする後期基本計画を策定しました。



基本構想の都市像

第5次廿日市市総合計画では、「世界遺産を未来につなぎ、多彩な暮らしと文化を育む都市・はつかいち」を都市像としています。

後期基本計画の策定

後期基本計画の策定に当たっては、廿日市市総合計画審議会に諮り、市民アンケート調査やまちづくり指標（※1）の進捗状況などから、前期基本計画の成果を検証しました。

後期基本計画は、引き続き都市像の実現をめざし、「住み続けたいまち」「活力のあるまち」に力点を置き、策定しました。

※1 まちづくりの進み具合を誰にでもわかりやすく示すために設定した目じるし

後期基本計画での 主な取り組み

基本目標1 健康かな暮らしを支え、 安全で快適に 暮らせるはつかいち

- ・地域防災力と消防力の強化
- ・防災機能の強化（公共施設などの耐震化）
- ・環境にやさしいライフスタイル・ワークスタイルの推進（こみ減量化や省エネルギーの推進、新エネルギーの検討など）
- ・健康づくりの推進
- ・高齢者や障がいのある人が地域で安心して暮らすための環境整備（医療や介護の連携体

基本目標2 新たな魅力と 活力を創出し、 交流するはつかいち

- ・新たな商業機能の充実
- ・地域拠点機能の整備
- ・地元中小企業の活性化の支援
- ・起業家の育成支援
- ・企業立地の促進
- ・農業生産体制の強化
- ・歓迎空間の形成（宮島口栈橋周辺の整備）
- ・観光資源の魅力アップ

経営理念 魅力ある資源を 上手につなぎ、 市民満足度を 高めるはつかいち

- ・協働についての理念の共有（協働によるまちづくり基本条例の普及・実践）
- ・地区、地域の自主的な取り組みへの支援
- ・財政の健全化

まちづくりへのご協力と 参画をお願いします

まちづくりは、行政だけでなく、きるものではありません。地域に暮らす市民の皆さまと目標を共有し、協働してまちづくりに取り組み、いくことが大切です。

本市のまちづくりに対して、市民の皆さまのご理解とご協力、そして参画をお願いします。

総合計画の詳しい内容

第5次廿日市市総合計画は、市ホームページの市政情報・市の計画・第5次廿日市市総合計画に掲載しています。また、次の場所で見ることができます。

- ・市役所4階総合政策課、2階行政資料室、各支所地域づくり推進担当課、各市民センター、各市民図書館

計画書の販売

総合計画の冊子は次の場所でも販売しています。

基本構想編、前期基本計画編、後期基本計画編

各1部400円

- ・市役所4階総合政策課
 - ・各支所地域づくり推進担当課
- ※概要版は、無料です

みんなが 手を つなぐために

問合せ 人権・男女共同推進課 啓発・推進係 ☎9136

わたしたちにできること

今年も桜の季節を迎えています。桜の蕾で春を感じ、満開で春を満喫し、葉桜で春の名残を惜しむ、桜ならではの役目を全うしようとしています。思えば昨年の「花見」は自粛ムードでしたが、家族や友を失い、地域も家も失いながらも、生かされた命を思い、再起を期し、「花見」を行った被災者のユースに心打たれたことを覚えていてます。被災者の見る今年の桜は、昨年とはまた一味違うものであろうと思います。

あれから一年

2011年（平成23年）3月11日14時46分に起きた東日本大震災は、わたしたち一人一人の心に大きな爪痕を残しました。約2万人の死者が出たということは、その数倍の人たちが深い悲嘆に包まれたということになります。当たり前に生活していたわたしたちには、地域や家や職、そしてかけがえのない家族を失った人たちを悼む資格はないのでは、という思いにまで至りました。

あれから一年、被災者にとっては、徐々にではあるでしょうが、復興に向けて確実に歩みは続いています。被災者へのさらなる支援の心、大震災から得た教訓（災害への準備・地域の絆・家族の絆など）をずっと持ち続けねばならないと強く思

います。

荒れ果てた土地に咲く一本の百合

泥や瓦礫に覆われた土地、どんなに取り除いても、地面は不機嫌な泥色をしていると表現されています。その荒れ果てた土地に、一本の百合が蕾をふくらませている光景が伝えられました。百合は初夏から秋にかけて咲く花ですが、特に「梅雨時に人知れぬ繁みの中でひっそりとし、しかしひたむきに咲く百合の花は、恋しい人を感じる気持ちによく似ている」といわれます。きつと失った家族や地域を思い、再起を期し、誰かが育ちかけの苗か球根を、いとおしんで埋めたのだでしょう。百合は強い花のようです。東北は必ず元よりよい土地に生まれ変わると訴えるように、きつと花は咲き続けていくことでしょう。

「愛語」の教え

瀬戸内寂聴さんは、大震災後「わたしたちにできること」をこう語っています。

『何もかも失った人に頑張れといっても負担になるだけ。わたしたちにできることは「大変ですね。辛いですか？」と気持ちに寄り添い、聞いてあげること。そして「自分に何ができるのだろう」と考えること。どんな小さなことでも沢山の念が一つになれば応えが返ってくる。』

道元に「愛語」の教えがあります。人に「慈愛の心」で接し、「願愛の言葉」を掛けていようと、怨敵でさえ降伏することがあるといっています。

自分のことだけ考えるのではなく、しっかりまわりをみつめ、みんなが暮らしやすい地域にするために自分は何ができるか、考え続けていきたいですね。

荒れ果てた土地に一本の百合を咲かせるように。

この欄は、市民と市職員が構成する「広報人権問題シリーズ編集委員会」が編集しています